

標 題 : A Population-based Case-Control Study of Colorectal Cancer in Majorca
. Dietary Factors
マジョルカ島における結直腸癌の住民に基づく症例 - 対照研究 . 食事要因

著 者 : E. Benito, et al. (スペイン、オランダ、フランス)

掲 載 誌 : Int. J. Cancer 45: 69-76 (1990)

要 旨 : 住民に基づく症例 - 対照研究をスペインのマジョルカ島で 1984 年 7 月から 1988 年 2 月まで実施した ; 結直腸癌の症例 286 名、住民対照 295 名、病院対照 203 名に食品頻度質問表をもちいて面接した。

多変量解析で、新鮮な肉の高い摂取で結腸癌リスク上昇がみられ(RR=2.87)、しかしアブラナ科野菜の高い摂取は予防を提供した(RR=0.48)。

直腸癌では、リスク上昇は乳製品と関連したが(RR=3.08)、アブラナ科の摂取で予防がえられた(RR=0.50)。

結直腸癌で、穀物食品群もリスク上昇を示した(RR=1.92)。

症例を病院対照と比較しても、結腸癌と直腸癌に対するアブラナ科の影響および直腸癌に対する乳製品の影響は残った。RR 試算は小さくなったが、大まかに言うと関連の方向は同様であった。

また食品群の単変量解析で、穀物、ポテト、ねり菓子、卵の摂取増加および 1 日の食事回数増加によって、結直腸癌の有意なリスク上昇が示された。コーヒーの摂取者に減少の徴候がみられた。

リスク源に基づく解析を行うと、結直腸癌リスクの 4 倍上昇と統計的に有意な傾向が「新鮮な肉、乳製品、穀物の高い摂取とアブラナ科の低い摂取の組合せ」で認められた。
